

(別紙5)

調査報告書

訪問調査日	2009年3月16日
調査実施の時間	開始10時00分 ～ 終了14時50分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 福の里 (福島県)
-------------------	------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 <u>大野 恒夫</u> 氏名 <u>熊谷 まゆみ</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u> 氏名 <u>遠藤 糸子</u> ヒアリングを行った職員数 (2)人

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0771000197
法人名	株式会社 マインド
事業所名	グループホーム 福の里
所在地	福島県二本松市向原265-5 (電話) 0243-23-6077
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	会津若松市東千石1-2-13
訪問調査日	平成21年3月16日

【情報提供票より】 (21年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	13 人	常勤	10 人, 非常勤3人, 常勤換算7, 8

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1・2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (2月20日現在)

利用者人数	15 名	男性	3 名	女性	12 名
要介護1	2	要介護2	4		
要介護3	5	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低	52 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みうら内科クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社員寮を改造した建物であるが、キッチン、リビングはこじんまりとして家庭的で居心地のよい雰囲気がある。居室も使い慣れた家具や日用品が持ち込まれ落ち着いた居室となっている。外部評価の改善項目にも運営者と共に積極的に取り組み改善がはかられている。職員の対応もよく利用者と共に暮らしていると言う感じを受ける。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	地域密着型サービスとしての理念、重度化や終末期に向けた方針の共有。外部評価の結果を受けて、職員、運営者で改善に向けて話し合いを行い、改善がはかられた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価票を職員に配布し、記入してもらい、管理者がまとめた。まとまった時点での話し合いを行ってほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5)
	ホームの運営状況等を報告し意見交換を行っている。そこでの情報やアドバイス等をサービスの向上に活かすように努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	運営推進会議への家族の参加、家族会、訪問時等、機会をとらえて家族の意向や意見を聞くように努め、運営に反映させるよう配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内会に加入し、地区の清掃、敬老会への参加、ホームの行事(花見、芋煮会等)に地域の方々を招待したりして交流をはかっている。

2. 調査報告書

主任調査員氏名 大野 恒夫 / 同行調査員氏名 熊谷 まゆみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を踏まえ、職員との話し合いを行い、「私たちは利用者と地域の交流を大切にし、地域に根ざしたグループホームを目ざします」という理念を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に、理念を唱和して業務についていることから理念が意識付けられ職員に浸透しつつある。実践が理念に基づいたものとなっているかの振り返りの話し合いが不十分である。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、職員が地区の清掃に参加している。利用者は地区の敬老会に参加したり、ホームの花見、芋煮会に地域の方々に参加してもらうなど交流をはかっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員に配布し、記入してもらい管理者がまとめた。まとめた時点での全体での話し合いは行っていない。外部評価の結果を受けて、職員で話し合い、独自の理念を作り上げるなど改善がはかられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催されている。ホームの運営状況等を報告し、意見交換を行い、そこでの情報やアドバイス等をサービスの向上に活かすように努めている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	写真とコメントが入った利用者の近況報告、金銭管理報告、担当職員の変更など毎月郵送している。利用者の状態変化等は随時連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族の参加、家族会、訪問時等、機会をとらえて家族の意向や意見を聞くように努め、運営に反映させるよう配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動があった場合は、利用者の情報等の引継ぎを行うとともに、同行指導を行うなど利用者には支障がないよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回、社内研修や法人内のグループホーム主催の研修を行っている。外部研修にも参加希望をとるなど積極的に参加させ、報告会も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入し、連絡会主催の研修や交流会に参加し、他施設との交流をはかっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/	/	/
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で、料理、洗濯干し、などを一緒に行うように努めるとともに、利用者の話の聞き役になったり、料理を教えてもらったりして、良い関係作りに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用で思いや意向を把握するように努め、日々の利用者の言動をセンター方式のシートに記入し、生活状況等を把握し、情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活歴を参考にしたり、利用者や家族の意向、意見を聞き、職員から利用者の状況、問題点等を出してもらい、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の評価、カンファレンスを行うと共に、職員から利用者の状況、状態変化等を聞き、定期的、随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は家族同行が原則で、口頭で必要な情報を伝え、受診結果の報告も全体に周知している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応・終末期対応ケア指針」を定め、家族にも説明し、主治医、看護師とも連携し対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時の声かけなど一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわない対応に配慮している。記録など個人情報は事務室に鍵をかけて保管するなど適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、日中の過ごし方など利用者の希望、ペースに沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日、月曜日を除いて業者からカロリー計算された食材を購入している。手伝いの出来る利用者は、調理、配膳、後片付け等職員と一緒にやっている。職員も同じテーブルと一緒に食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調、希望に配慮して入浴支援を行っている。入浴を拒む人には、言葉かけ等を工夫して入ってもらうようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	日々の暮らしの中で、本人の得意なことや力を活かしながら料理の下ごしらえ、部屋掃除、ゴミだしなど役割を果たしてもらっている。アコーデオンに合わせた歌、遠出のドライブなどの楽しみごとも行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	近くの公園への散歩、買い物、図書館、ドライブ等、外出の機会をつくり支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置して、出入りが確認できるようにし、鍵はかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力・指導を受けて、近隣の方も参加して避難訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材を購入して、調理しているので栄養摂取は確保されている。水分についても1日1千CCを確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	社員寮を改造したため、キッチン、リビングは必ずしも広いとは言えないが、こじんまりとして家庭的で居心地の良い雰囲気がある。トイレ、浴室も清潔が保持されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、日用品などが持ち込まれ、写真、飾り物等も工夫し、本人が暮らしていたように落着ける居室となるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム 福の里

記入担当者名 管理者 遠藤 糸子

評価結果に対する事業所の意見

貴事業所様に指導を受けて今回で3度目になり、少しずつ努力してまいりました。
おかげ様で何とかここ迄向上することができました事に大変感謝申し上げます。
今後も御指導を宣教お願い致します。ありがとうございました。

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。